

同時期の欧洲 中世都市へ

鳥海柵が造られた11世紀代、ヨーロッパでも城の変革が起きました。

「インカステラメント」といつて、城を中心とした中世の都市形成が進んだのです。このころから封建領主(騎士)の城を中心とし、小規模な中世都市が広く出現し、古代以来の中心地や都市の在り方が大きく変わりました。「インカステラメント」が起きたことにより、城を核とした中心地のネットワークができて、その後の

中世社会の基盤をつくりました。

最も典型的なのが、イタリアのロッカサンシルベストロという小さな中世城下町跡です。集落中心の山に城があり、その周りに小城下町を形成しました。発掘が進んで、土器やパン、油搾り、鍛冶の職人や教会僧などがいたことが判明しています。

城を中心とし、兼工房が広がり、防御的な単純な要塞ではなく、小都市が成立したのです。

「インカステラメント」は、アルプス以北の地域でも起きていました。観

光地としてもよく知られている、ドイツのローテンブルクは、周辺地域にあつた城を核とした小城下町を吸收・集約して生まれました。大きな町ができる過程の都市史が、研究によつて見えてきました。

の土づくりを基本にした城だと分ります。日本でいえば、天守に相当す

るところだけ石の建物になつてました。建物も木で造つていたと思われます。守りを固めた本城の周囲には外郭があり、そこにはさまざまな商職人が暮らしたと読み解けます。

石造りの城門や櫓、城壁を備え、本丸には王宮と教会があり、外郭には本当にさまざまな職人が集まつて暮らしていました。皇帝の城をして、

「教区教会」になつていて、宗教的な権威を皇帝の王宮に集めようとしていました。世俗の権力と宗教的権力を合わせた中

心性をティレダは備えたのです。

この時期の城で最も発掘が進んでいるのが、ドイツのティレダ城です。ザクセン・アンハルト州にあって、ドイツ皇帝ハインリヒ4世・5世の最も重要な居城でした。

ティレダ城にあつた教会は、周囲の広い地域の中世的な城下町の形成を行つてたのがはつきり分かるのです。

考察 全盛期の中心的建物

金ヶ崎の国指定史跡 鳥海柵跡

7

2017年度シンポジウムより

講演 千田 嘉博氏 (奈良大学教授)

「前九年合戦と鳥海柵」VII

鳥海柵と同時期に起つたヨーロッパでの都市形成の変化について解説する千田嘉博教授

